

令和4年度 第2回苫小牧市民文化芸術審議会 会議概要

日 時：令和5年3月27日（月）13：30～16：10

会 場：苫小牧市役所9階 第1委員会室

出席委員：尾野委員、坂井委員、佐竹委員、下山委員、中川（純）委員、
中川（良）委員、中田委員、松原委員、吉岡委員 計9名

欠席委員：佐藤委員 計1名

事務局：山口教育部長

生涯学習課 河本課長、斉藤課長補佐、小林主査

1 開会 （進行）河本課長

2 議事 （進行）会 長

（1）令和4年度苫小牧市民文化振興助成事業の報告について

- ・令和4年度助成事業の16事業のうち、主に助成金が減額となった5事業について事務局より報告（小林主査）

※令和4年度事業については、事務局の報告とおり承認を得る。

（2）令和5年度苫小牧市民文化芸術振興事業の申請について

- ・令和5年度助成事業の申請18件について、事務局より説明（小林主査）

<質疑>

会 長：全部で18件あるので1件ずついきます。まず1番のアンデパンダン展ですが、ご意見等ありましたらお願いします。

委 員：他の美術関係と比べると新聞広告を載せるのはここだけですね。ルールから言って問題のあるものではないが、新聞広告まで必要なのかは気になります。

会 長：全体で見ると新聞広告を掲載する事業はありますね。

委 員：新聞記事にしてもらうなどの方法もあるが、お金をかけてでもPRしたいということではないか。要綱上問題はないのでやむを得ないのではないかと思う。

委 員：別の話ですが、いつも気になるのは「将来補助金に頼らない継続的な活動」というような話も出ますが、基本的にこの助成金はこの趣旨なのか、それとも継続性というよりももっと広げることが

主なのかによって考え方が変わるので、確認しておきたい。

事務局：元々一本立ちを目指している補助金でもあるんですけど、以前の審議会のなかで今後の方向性が見えないのではないかとのご指摘をいただいておりますので、計画書の「今後の方向性」などに記載されているのかなというふうにとらえています。

委員：逆にいうと10回続けて行くよというような催しがあったとして、継続性という意味ではいいけど、独立独歩には反するんじゃないかと。そういう取り方ができたのですが。

委員：そこは、匙加減の話ではないでしょうか。今の市の行政から考えるとそれを抑えるよりもっともっと広げる方がいいのではないかと私自身は思っています。

事務局：今のところで補足させていただくと、予算の枠のなかであれば、いろんな事業に使っていただいて、市民の方に広く文化芸術に触れていただくという意味ではいいかと思えますし、これが予算の枠から出たときに、議論になるのかなと考えております。今回は枠のなかですので、そこはあまり気にしなくても、むしろどんどん事業をやっていただく方が主なのかなというふうには考えてはおります。

会長：それでは2番目に行きます。全道美術協会苫小牧地区展です。

委員：運搬費5,000円×15人ってなっているけど、15人の家にバラバラに行くということか。いっぺんに行けば7万5,000円もかからないんじゃないかと思う。

委員：もう少し安くする方法を考える必要はありそうですね。

委員：決算では領収書を出してもらってから実際にかかった金額がわかるということでもいいんですね。

事務局：そうですね。あくまで予算というところで考えていただければ。

委員：これに限らずきちっとした領収書ももらっていただきたい。

会長：全体に言える話ですね。2番についてはよろしいでしょうか。

委員：はい。

会長：それでは3番 苫小牧美術協会です。これは4月4日から始まるんですね。

会長：特になさそうですので、よろしいですかね。次は新規でNYANXI展です。

委員：実行委員会というのは組織的にはどういう形なのでしょう。

委員：例えば演奏会であれば、実行委員会を作ることによって、PRなどは実行委員会がやって、自分たちは演奏の集中できるというところはありますね。最近増えてきている。

委員：計画書の添付資料のなかに名簿と記載がありますけど、資料にはつ

いていないんですよ。

事務局：名簿は提出いただいている、資料には添付していませんが、事務局では確認しています。

委員：展示費用20万円、宣伝印刷費57万6,000円ってこんなにかかるのと思う。

委員：調べると、去年もやっているんですよ。いわゆる個展という形で助成金をもらわないでやってたんだと思う。今も意見が出ていたけど、他の美術関係のものと比べると金額は高くて、宣伝費が突出している。チラシが5万枚もいるのかとか、新聞折込、FM広告とか。去年はそこまでやらなかったのかもしれないけど、なんだかモヤモヤとするんですよ。

会長：事務局の方では去年やってるのは把握していますか。

事務局：はい。把握しております。

委員：会場費が安い割には、他の経費が多過ぎますよね。これだけ経費がかかるのであれば、300円でも500円でも入場料を取るといいのではと思ってしまいます。

委員：やはり宣伝印刷費が高い。

会長：宣伝印刷費については、もう少し詳しい内容を知りたいということで、事務局の方から伝えていただけますか。

事務局：はい。

会長：あとチラシ5万枚についてですね。

事務局：要望計画を受理する際に、事務局でも宣伝印刷費について指摘はさせていただいてまして、チラシの枚数が他と比べると過剰に多い部分は伝えております。この枚数は新聞折込をするためで、枚数が多いことで、ネット印刷ができなかったり、かえって割高になるので、印刷業者に発注するとのことで、他の事業と比べると高くなっている要因かと考えております。さらにFMラジオ広告は、6月開局予定のFMとまこまいでのCMを考えているとのことで、CM回数を減らすなどすれば金額は抑えられるとのことなので、内定となりましたら、交付申請の際に再度確認していきたいと考えております。

委員：展示作業の方への謝金も1人1万円もかかるのも高い。自分たちの仲間でボランティアでできないんですかね。

委員：この展覧会は白山さんの作品のみの展示なのでしょうか。また、猫を題材にということですが、猫以外の作品はあるのでしょうか。

事務局：白山さんの作品展と伺っており、いわゆる個展となります。要望計画書に「主に猫を題材に」とあるので、猫以外の作品も一部あるのではと考えております。

- 委員：ほかの方も含め申請されている予算をみると、それぞれの個々の基準で予算を組んで申請されているように見える。すごく難しいことではあるけど、ひとつひとつ精査していくしかない。
- 委員：明確な基準というものが無いので、最終的には審査会で申請者を呼んで中身を確認となる。
- 会長：こちらはいったん保留とさせていただきます。次に、苫小牧学生美術展です。
- 委員：学生が作品を発表する機会が本当に少ないので、着眼点がすごく良いと思います。
- 会長：それでは、よろしいですか。次に縄文時代に関する講演会です。会場がホテルですが、事前に確認したところ、座席の間隔をあけて配置したいからとのことです。
- 会長：ご意見等がないようですので、こちらはOKとします。次は新規でとまこまいCollectionです。出演者はほとんど市内の方ですね。出演料もそこまで高くないですね。
- 会長：こちらもお意見がないようですのでよろしいですか。それでは、次のルーランド・デュイ チェロリサイタルです。
- 委員：出演料が高いんじゃないかという話はこれまでも出てきてますが、それでダメとなった経緯はないです。
- 委員：こういう事業を個人で計画するというのは、自分で負担してでも市民の皆さんに聴いてもらいたいということなんじゃないかな。
- 委員：令和4年度も実施していると思うけど、入場者数はどのくらいですか。
- 事務局：43人と報告を受けておりまして、前回の会場は三星ハスカップホールとなっております。
- 委員：出演者はオランダから来るのですか。
- 事務局：旅費込みでの出演料となっております。
- 委員：オランダからいくらかかるのかわからないが、そこも申請者が負担しているのでしょうか。
- 委員：このクラスの演奏者なら入場料を取ってもいいのではと思いますね。
- 事務局：会場がとましんサロンなので入場料は無料となります。
- 会長：それでは、9番の苫小牧第九の会です。
- 委員：合唱の練習会場費と練習ピアニストが対象外経費となっているが、対象外でいいのか。
- 事務局：練習にかかる経費は助成対象外となります。
- 委員：企画・演出は何をするのか確認していますか。
- 事務局：申請者からは、合唱の規模が100名程度になるのではとのことで、

札響や市内のバレエ団体を呼ぶなどしてできるだけ集客を増やそうとするなかでの演出になるかと思えます。

委員：編曲料はオケ用の楽曲をアンサンブル用にするなど札響に頼むのかと思うのでこれは良いかと思う。

会長：10番 苦小牧西こども劇場地域公演です。

委員：入場予定者数80人となっているが、これは全て会員以外ですか。

事務局：一部、会員の方が入ってくる可能性はあるかと思われます。

委員：前回の入場者数の会員と会員以外の内訳はわかりますか。

事務局：77人との報告があり、だいたい半々と伺っておりますが具体的な人数までは把握できておりません。

会長：今回は小学校・幼稚園・保育園にも周知するということですね。

委員：旅費の計上があるが何名分ですかね。

事務局：出演者2名分となっております。

委員：劇団出演料というのはわかりますが、分担金というのは何なのでしようか。

委員：劇団を呼ぶために上層部の団体に払っているのではないですかね。

会長：次、11番の夜会シリーズです。

下山委員：この場合も申請者個人が呼んでやってるということでしょうか。

委員：たしか前回も同じ形で申請しているはずですね。出演者の岡嶋晋さんはどこの方ですか。

事務局：現在、ロンドンで活動中と計画書には記載されております。

委員：自己財源を申請者が払うのか。入場料も無料だし、そこまでして演奏会をやるってすごいよね。

委員：チラシも自分で作るっていいことですよ、経費としてあげてないので。

会長：苦信さんの方である程度作ってますよね。

事務局：苦信のホームページですとか、とましんサロンのイベント周知チラシがあるので、そちらの方での周知を考えているようです。

会長：続いて、12番の横山瑠佳さんと福井萌さんのリサイタルです。

委員：今回、飛行機代として、7万円2人分と計上しているけど、チケットを予約したときかなんかの金額がわかるものは必要だよ。そういったところを申請者に言っていないと。

委員：今、インターネットで予約しますもんね。そういったものを出してもらえれば。

委員：編曲料として3万円計上していますよね。前回編曲料はいくらかかっていますか。

事務局：前は編曲料はかかっておりません。

- 委員：本来、オーケストラなどで演奏する曲を2人で演奏するので、編曲するんでしょうけど、一体、誰が編曲するのは気になる。
- 会長：旅費交通費のところはしっかり指摘していただいて。他にご意見ありますでしょうか。ないようですので、13番 沼ノ端新栄公園ステージフェスティバルにいきます。後援も多いですし、協賛金などの自己財源が多いです。これだけあれば自立できるのではという感じもしますが。今後の事業の方向性として、「自立化した事業予算の組み立てを図る」とあります。
- 委員：地元の地域の一体でやっているっていう感じで、会費とか協賛金が主になるので、この助成金が必要なのかというのが問題にはなっていないんですけど、申請者に対して事務局の方から自立の方向性を確認してもらったら、一生懸命頑張りたいと言ってくれている。今回20万円に下がっているの、今後はいらなくなるんじゃないかなと思います。
- 会長：それではこちらはいいですね。14番の朗読プロジェクトです。会場は自分のところでのことで会場費や照明などが助成対象外経費となっています。出演料がちょっと高い方もいますね。ご意見ございますか。
- 委員：会場が狭いのが残念という感じがしますね。本当はもっと人が集まるような感じと思いいけどね。
- 会長：それでは他よろしいでしょうかね。次に15番です。こちら新しい事業です。三浦綾子文学講演会で会場が妙見寺ということで、講師は三浦綾子記念館の館長です。場所がお寺ということで広く市民に開かれているのかなというのが気になりますね。
- 委員：事務局からも公共施設を使ってできないのかという話もしてはいるようですが。
- 会長：手ごたえがあれば今後大きな会場も検討したいと書いてありますね。内容は問題ないと思いますがどうでしょうか。特にないようですね。16番、前回対象外になってます活性の火です。会場にELLCUBEを使用しているところがどうしても営業が絡んでるのではないかと思います。
- 委員：一昨年、助成対象外となったのは、まちなか再生がメインで文化芸術振興ではないという話で却下したんです。実行委員長はELLCUBEの代表なんですね、だから自分のところを使って金をもらって。だから対象外なんじゃないかって話となった経緯がある。今回、見込まれる効果とか今後の事業方向性に「芸術」「文化」を入れてきて、変な言い方ですけど、ダメになったからこういう文字を入れて

何とかできるようにしたんじゃないかっていう感じですよ。

あと、出演料に道外アーティスト招致費用で100万円とありますが、さっきのとまこまいCollectionは市内のメンバーがほとんどで低額で出演してもらうのと比べると、ちょっと文化芸術振興からかけ離れてるんじゃないかなって思っています。一昨年却下して今回OKという理由を考えないといけない。その辺はしっかり皆さん考えていただきたいなと思います。

委員：内容的には13番の沼ノ端と同じような感じもしますけど。

委員：わたしは参加したことがなくてわからないのですが、文章だけで想像するとキッチンカーも出て、お祭りのような感じがして、文化芸術というふうに響いてこないんです。さっき終わってしまいましたけど、沼フェスは、沼ノ端の住人としての視点ですけど、市内の他の地域の方も来れますけど、沼ノ端のお祭りだという認識です。なので、どちらもお祭りで文化芸術ではないなととらえています。

委員：ミュージシャンを呼んで演奏したら、文化芸術振興なのかって言われるとじっくりしない気もする。

委員：沼ノ端が良くて活性の火がダメとはならないと思うんですよ。

委員：札幌のジャズフェスティバルみたいな感じですかね。でも、皆さんおっしゃるように芸術っていうもののための助成金であれば、これはお祭りで皆さんの憩いの場っていうところで線を引かないと。先ほどの沼ノ端と系統が同じなのであれば申し訳ないけど切らないといけないのではないかと思います。

委員：個人的なことを言わせてもらおうと、お祭りのなものでもいいんじゃないのかなと思うんですよ。そこに人を集めていい音楽を聞かせたいっていう主旨であれば。さっきの札幌のジャズフェスティバルも演奏する人のほかに、公園のなかに飲食店もあつたりして、いろんな人にいろんな機会を与えるという意味ではやり方は工夫があつていいんじゃないかな。非常に質の高い人たちが出て、なおかつ将来独立できる形に持っていけるような形であればいいんじゃないかなってわたしは思うんですけども。ただ、ELLCUBEの営業の一環みたいな形でやられるとそれは違うのかなと思います。

委員：さっきから引っかかるのは沼フェス。そっちを許しちゃうとこっちはどうなのって思う。何が違うのってなりますよね。

委員：ELLCUBEっていう自分のところを使ってるのがダメかもしれないですね。でもそれだけの問題でなしにするのもどうなのかなと思う。これ時間がかかりそうなので保留して次に行きますか。

委員：活性の火は営業に絡んでくるのかなと思うんですけど、沼フェスは

広く市民にと言う割には、町内会が沼ノ端ばかりで、「広く市民に」というよりも地域の催し物という印象が強いです。

会 長：いったん保留して次に行きます。アール・ブリュットです。

委 員：人形劇で演出料20万もかかるものなのか。

事務局：演出料について申請者に確認しましたが、アール・ブリュット用に上演時間を短くしたり出演者数を減らしたりと内容に手を加えていただく部分と、当日の照明ですとかスクリーンに歌詞の字幕を流したりという部分にかかる費用と聞いております。

会 長：市民参加という部分では問題ないですよ。障がいのある方たちの場ということですし。

委 員：そうですね。演出料がちょっと気になるというだけで。

会 長：それではよろしいですか。では最後です。18番ですね、場所がライブハウスなんですよ。入場料があってライブハウスの営業に関わるんじゃないかっていう感じですよ。

委 員：酒類の提供もあるんでしょうね。事務局から場所の変更についてはしていますか。

事務局：当初、別のライブハウスでの申請があり、営利目的と審議会で指摘を受ける可能性があると思われるので、会場の変更を持ちかけたところ、こちらの会場に変更された経緯があります。

委 員：会場のこと調べてみたんですけど、ワンドリンク付き1000円とかでやってるんですよ。

委 員：お酒の提供があるなら、高校生は入れられないのでは。さいとう楽器の音楽館のような演奏専用のところでやればいいけど、ライブハウスでってなると却下じゃないかなと思う。

会 長：それではそのようにしてよろしいですかね。では、保留していた4番のNYANXI展と、それと沼フェス、活性の火についてですね。まず、沼フェスと活性の火をあわせてやっていきますか。活性の火は昨年やっているんですよ、自力で。あと、どうしてもELLCUBEの営業が絡んでるといった感じがしますよね。沼フェスは協賛・後援の町内会が沼ノ端地区だけとなっているところが市民に開かれてるのかということですよ。それなりの集客もあって認知されて市民に広がっているのかなという感じもしますけど。

委 員：沼ノ端でやるけど、他の地域の人には除外って話にはならないですよ。たまたま沼ノ端地区の町内会の人が一生涯懸命やってるっていう。活性の火もこれもさっきお祭りって話してますから、文化芸術振興に当てはまるのかっていうところを考えて皆さんで話を進めていければ。

- 会 長：先ほど活性の火であった尾野委員の意見はなるほどなと思いましたけれども。
- 委 員：いずれも音楽が主目的だと思いますので、主旨は賛同できます。フェス的な要素もあってキッチンカーや出店は付随的なもので、音楽に位置付けていいのではと思いますが、一方でどちらも5千人だとか2万人という人が来るということで十分自立していけるのではと思うんですよね。収支予算書を見ますと、沼フェスは協賛金で成り立ってますし、活性の火は昨年助成がなくてもできますので、もう少し自己財源について掘り下げていって、困っていないのであれば助成は不要ではないかなと思います。
- 委 員：話しをすれば、困っていますとは言うでしょうね。去年コロナの関係で規模縮小して実施しているんですよね。ようやく今年から少しずつ復活させたいのでっていうところはあるのでは。そこをどう考えるかですよね。
- 委 員：事務局の方で、実際の決算は全て帳票を含めて確認はできるのですか。このイベントについてどんな収入があってどのくらい使ったっていうのは全部精査できるのですか、終わった後に。
- 事 務 局：実績報告で決算報告書を提出していただいておりますのでそちらで確認しております。
- 委 員：(事業の) 規模が成熟しているので助成は必要ないのではと個人的には感じています。
- 委 員：市民に対して芸術を広げたい方たちに対しての助成はやりませう、みんなで苦小牧を盛り上げようとか何かしようっていうようなものは違うんじゃないかとか規律みたいのがあれば、はっきり分けられるかなって思うんですけれども。
- 事 務 局：そこはあくまでの要綱のなかでの対象事業に入るかどうかという基準でしかないので、主催者の意気込み的な部分ではなくて、先ほどご意見があったように、音楽だとか芸術作品といったものが中心に据えられていれば、文化芸術と広いくくりのなかで見ればイベント的なものでもある意味文化に入るのかなというふうに考えられますし、市民の方が音楽や芸術に触れられる機会が設けられて、対象事業に含まれるのであれば事務局としては、皆さんにご審議のうえ決定していただければと考えています。
- 委 員：2万人集まるイベントで補助がないと厳しいというのはやり方に工夫の余地があるのかもしれないですね。
- 委 員：一昨年、(活性の火を) 却下しましたよね。実行委員長は何か言っていましたか。

事務局：前回、申請内容がまちの活性化が中心に見えるということで却下となりましたけど、実行委員長としては、市民に音楽に触れてほしい、若い人にいろんな種類の音楽を聴いてほしいという思いで、文化芸術振興で申請したいと聞いております。

委員：まちなか再生が文化芸術振興なのかと、そのときは思っていたので、そこのところがネックになっていた。でも今回、実行委員長がしっかり考えてやってくれるっていう意識があるのであれば、前回却下でも今回対象でも良くなったと言ってもいいのかなとも思うが難しいですね。沼フェスと並行して考えていかななくてはいけないですよ。

委員：沼フェスも活性の火も始まってから何回か経っていますけど、将来的に補助金に頼らない継続的な活動が見込まれるかというところで、多分この2つは自立できるのではと思うんです。今年度限り助成しますよっていうのはどうでしょうか。

委員：今年度いっぱいとするにしても来年度だめという理由をはっきりとしないといけないですよ。

委員：申請者には将来性といったところを全面に出していただければいいんですけど、自立するというところはこちらもそこまでアプローチしていないですよ。

会長：計画書に「今後の事業の方向性」の欄がありますよね。

委員：申請する側から見ると、将来どのように自立化していきますかというキーワードは全くない訳ですよ。なので申請者の皆さんは「もっと広げていく」だとか「大きくする」といった意味での将来性ととらえている。継続して自立化という将来性としてはとらえてないんですよ。行政としては、予算の中だからそこまで厳しく考えることもなかろうというようなご意見もいただいているので、わたしはむしろ、お祭りであれ、どんどんやってもらったほうがいいという考えでいいのでは。ダメなら2つともダメですよ。

委員：来年度切るんじゃないかと、来年度計画したときに発展性のある事業内容になっていけば、継続して助成することもあるかもしれませんよということですよ。

会長：発展性と自立化はイコールと考えていいですかね。

委員：そうですね。発展すれば自立化できるという考え方ですね。

委員：活性の火については、先ほど課長から聞いた部分を意識していると解釈すれば、前回ダメだった部分が改善されていて今回は大丈夫ですよっていうことになってくるのかなと。ただ、やっぱりもう自立できるでしょっていうところはあるので、もし次回も申請があつ

たらその辺を審査していければと思う。沼フェスにも同じことが言える。審査会をやる必要はないが、今後、補助金に頼らない継続的な活動を検討していただきたいと話があったことを事務局から伝えていただいて、理解してもらったうえで、助成対象とするのがいいのではないか。あと、活性の火でELLCUBEを会場とするのはいいが、会場使用料は助成対象外経費としてもらいたい。

事務局：内定ということであれば、会場使用料については交付申請の際に修正していただきたいと思います。

委員：みなさんどうでしょうか。今回はこのような形で内定としていいかなと思うんですけども。

会長：それでは、沼フェスと活性の火はよろしいでしょうか。最後、ひとつ残りましたNYANXI展ですが。

委員：やっぱりこれはもう一度予算を精査してもらいたい。やること自体は問題ない。条件付きの内定ということで、あとは事務局に任せますので申請者に伝えてほしい。それと18番は却下ですね。

事務局：会場を変更したいと言ってきた場合、どうしますか。

委員：ライブハウスじゃなくてということですね。

委員：会場を変更することによって予算が変わることもありますよね。

委員：ひとつ確認なんだけど、申請者の方も出演しますよね。自分で出てお金もらうっていうのはダメですよ。

事務局：申請者の方も出演しますが、出演料は計上されておりません。

委員：ライブハウスじゃないところになったら対象外とする理由はないですね。

委員：もう一度ライブハウスはダメだよって伝えてもらってですね。

会長：まとめますと、NYANXI展は予算を見直してもらって、沼フェスと活性の火については自立化に向けた考えについて事務局で確認してもらって、そして最後のライブについては会場変更するのであれば良いということで、それぞれ条件付きの内定ということでよろしいでしょうか。

委員：はい。

委員：会場変更となると機材運搬費がかかってくると思うが、それは認める方向で良い。

会長：他ご意見等ありませんか。

委員：はい。

※令和5年度の要望事業18件のうち、14件を内定、4件は条件付きで内定することで了承を得る。

(3) 苫小牧市民文化芸術振興助成金要綱取り扱いに係る留意事項の改定について

- ・追加募集時の審議会資料を事前送付するために募集開始日の前倒しと、あわせて募集開始月を変更により対象事業の実施期間を1か月拡大することを目的として現行の「7月16日から8月15日」から「6月6日から7月5日」とする改定案を事務局より提案（小林主査）

※留意事項の改定については、事務局提案とおりに承認を得る。

9 閉会 16時10分